

(株)紀伊国屋書店

大学における電子書籍とこれからの学修・研究

# 電子図書館を活用した 社会情報学部の教育

---

青山学院大学 社会情報学部

教授 飯島泰裕



# 青山学院大学 社会情報学部 社会情報学科

- 2008年4月開学: 1~4年次 相模原キャンパス
  - 学生定員数:I学年220名(収容定員880名)
  - 授与学位 学士(学術)
- 大学院社会情報学研究科(相模原、青山)
  - 社会情報学コース
  - ヒューマンイノベーションコース
  - 博士前期(修士)、博士後期(博士)
  - 博士前期学生定員数:I学年30名
  - 博士後期学生定員数:I学年 3名



# 社会情報学部のカリキュラム リエゾン人材の育成

## 卒業研究タイトル例

## 社会情報学部のカリキュラム

The diagram consists of four overlapping circles arranged in a square. The top-left circle is light green and labeled '人間'. The bottom-left circle is light red and labeled '社会'. The top-right circle is light blue and labeled '情報'. The bottom-right circle is light pink and labeled '社会・情報' (Society-Information). The intersection of '人間' and '社会' is labeled '社会・人間'. The intersection of '人間' and '情報' is labeled '人間・情報'. The intersection of '社会' and '情報' is labeled '社会・情報'.

- 京急鉄道高架下のイメージを変え、利用したくなるような施設の提案
- やる気、やれる気と成績との関係
- ベトナムの発展とそれに伴う格差の拡大
- 天候変動によるエアコンメーカーのリスクを回避するための金融商品の開発
- 大学教育のための電子書籍構築研究
- サッカーの試合における時間別得点分析  
～デンジャラスタイムは本当に存在するのか～
- 優れたレビューとは  
—談話分析によるAmazonのレビュー分析—
- 匿名性がネット上の発言の受け止められ方に与える影響

社会的責任投資 (SRI) におけるインデックスと  
ファンドのパフォーマンス実証研究

持続可能な社会と政府の市場介入  
—環境問題への経済学的アプローチ—

バス輸送における新環境基準車両導入による二酸化炭素  
削減効果とそのコスト～都営バスにおける事例研究～

災害時のソーシャルメディアの在り方

「卒業研究発表会」で4年間の学びの集大成を発表。  
確かな学びの成果を携え、社会に羽ばたきます。

本学部のイベントとして、4年次生全員の卒業研究を教員と学部生全員で審査を実施。選ばれた卒業研究優秀者は、「卒業研究発表会」でプレゼンテーションを行いました。優秀者は、卒業式（学位授与式）にて学部表彰されました。

3

# 社会情報学部の特徴的な授業 社会人基礎力を意識

- 社会情報体験演習



- 多読(電子図書館)
- 発想法と問題解決
- プログラミング(Scratch)
- 統計学と調査(正規分布)
- アクティビティで学ぶ経済学(トレードオフ)

青字に電子図書館を活用

- プロジェクト演習

—実社会の問題にチャレンジ—



- 発想法
- プレゼンテーション
- 創造的会議

- 実践的な英語教育、就職支援

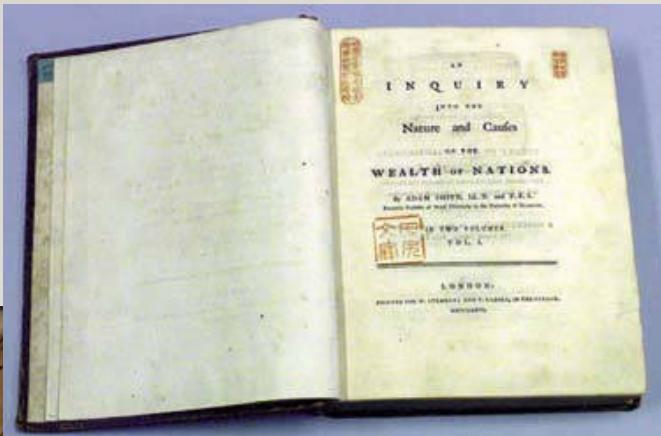
- TOEIC、SPI



# 大学教育における読書 創造的職場(研究開発など)に必要な読書

- 精読

- アダムスミス「国富論」を原文(英文古語)で社会背景を調べながら読む
- 本質を正確に把握し、疑問を持つ  
→ 疑問は発見の糸口



- 多読

- 1週間で10冊の書籍を読む(まとめる)
- その分野の状況把握
- 必要な情報を見つける  
→ビジネスにも重要な技能
- 2013~15年度まで、DNP
- 2016年度末に、新たな電子図書館システム「LibrariE」を導入

アダム・スミス「国富論」(1776年)初版本

From 東京大学経済学研究科HP

[http://umdb.um.u-tokyo.ac.jp/DPastExh/Publish\\_db/1997UT120/chapter4/15.html](http://umdb.um.u-tokyo.ac.jp/DPastExh/Publish_db/1997UT120/chapter4/15.html)

# 多読課題の問題

- 図書館 大量の貸し出しのため、棚から本が無くなる  
大きな机が独占される
- 学生 大量の本を持ち歩く



From 東京大学柏図書館



From いんため「男子大学生の通学カバンの中身って？おすすめなメンズカバン38選！」  
<https://intame.jp/universitystudent-recommend-bag38/>

# 青山学院大学社会情報学部 電子図書館

The screenshot shows the homepage of the SSI School of Social Informatics. At the top, there's a banner with a photo of the university campus and the text "君の未来形はここにある。Let your future here." Below the banner are sections for "受験者の皆様 Examinees", "在学生の皆様 Students", and "保護者の皆様 Guardians". A sidebar on the left contains links for "学部案内 Department Information", "大学案内 University Information", and "10周年記念 10th Anniversary". The footer includes a copyright notice: "Copyright (c) 2011 Aoyama Gakuin University School of Social Informatics. All Rights Reserved."

The screenshot shows the library catalog search results page. The header features the SSI logo and navigation links for "HOME", "交通事故", "サイトマップ", "サイト内検索", "教員紹介", "道路・駅概要", and "教員紹介". On the right, there are buttons for "文字の大きさ" (font size), "背景と文字の色" (background and text color), and "ご利用ガイド". The main content area has tabs for "トップ", "お知らせ", "新着資料", "ランキング", "特集 ▾", and "マイページ". A search bar at the top right contains "フリーワード検索" and a "検索" button. Below the search bar, there's a row of book covers with titles like "COMPANY SANDERSON" and "SCHUMANN". The "お知らせ" section lists various announcements with dates and descriptions. The "新着資料" section displays three items from the "平成29年度 プロジェクト演習入門 II ファイナルプレゼンテーション(B425)" series, each with a thumbnail image, title, and a "借りる" (borrow) button. The footer of the page also has a "お知らせをもっと見る" link.

# 出した課題と調査分析

---

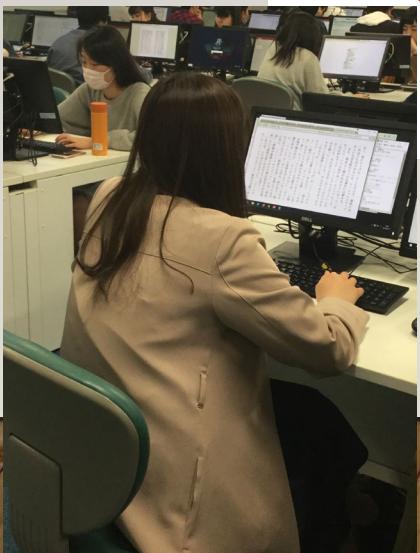
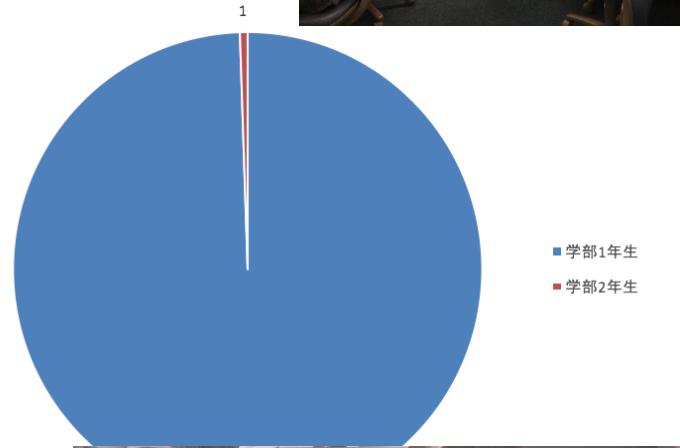
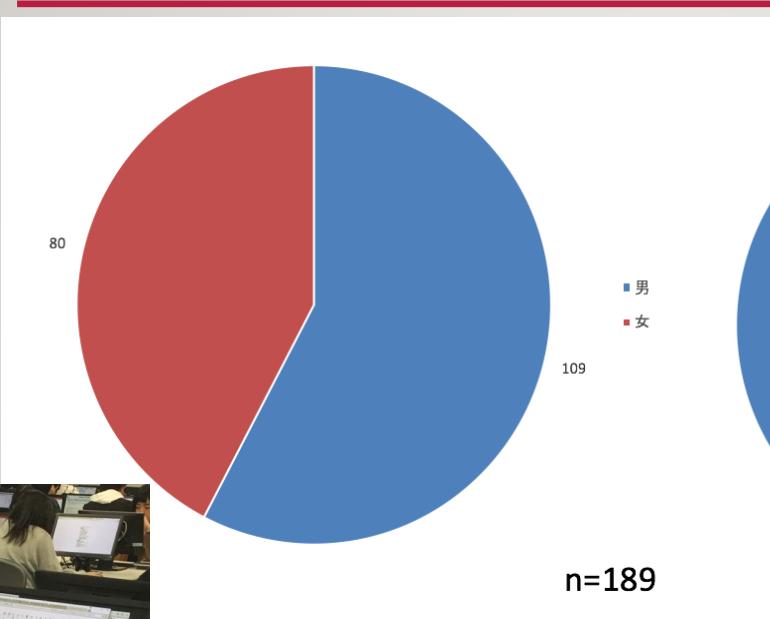
## 出した課題

- 電子図書館で4冊を読み、下記を報告
  - 著者『書籍名』出版社 1行
  - 専門キーワード 5個
  - 読了部分の%
  - 感想 3行
- 約2時間  
(90分授業2コマ、説明時間を除く)
- 2013～15年度は、1週間で10冊

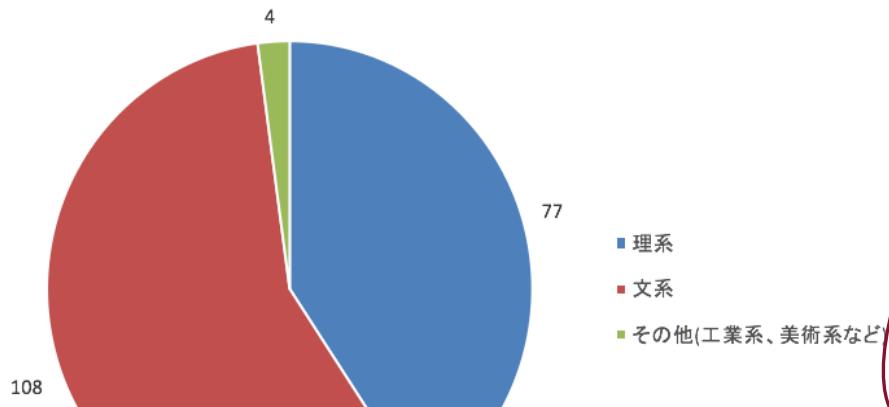
## アンケートと利用調査

- 調査対象 社会情報体験演習履修者
- 主な調査目的
  - ・実際に電子図書館を利用した感想
  - ・電子図書館への要望
- アンケート期間 2018年4月17日(火) 5限
- アンケート方法
  - ・Googleフォームを利用したWebアンケート
- 有効回答数 189名

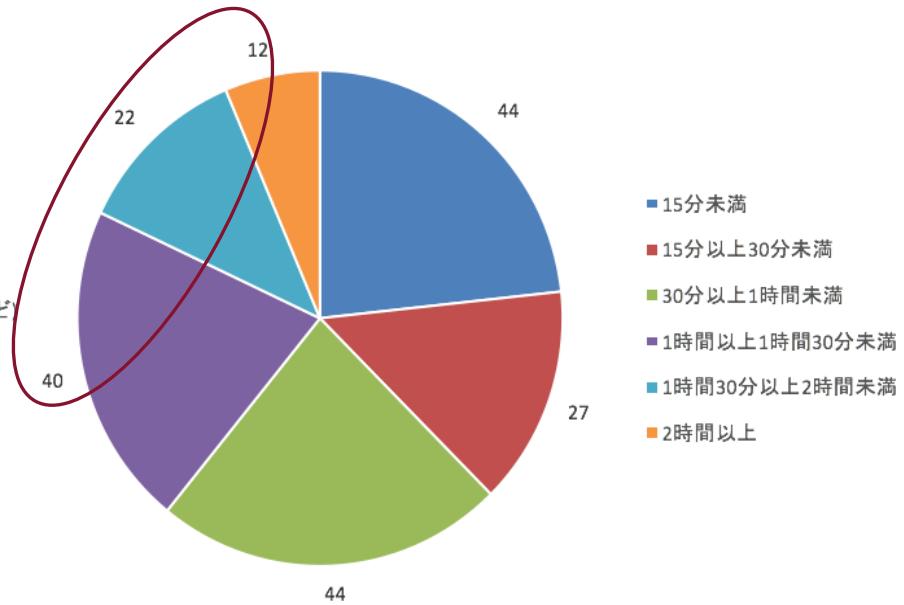
# 性別と学年



# 高校時代の文理区分 通学時間



n=189

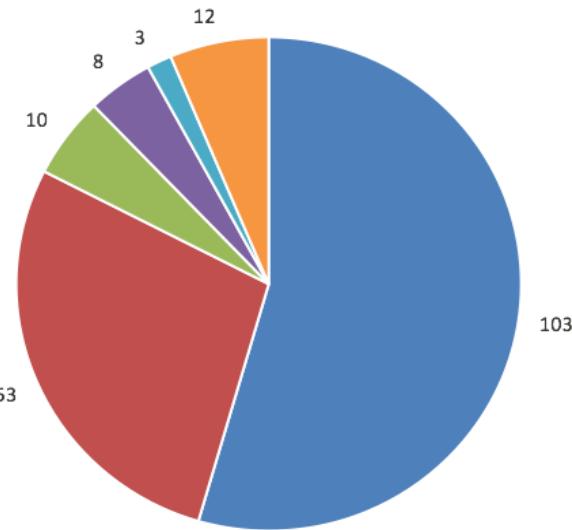


n=189

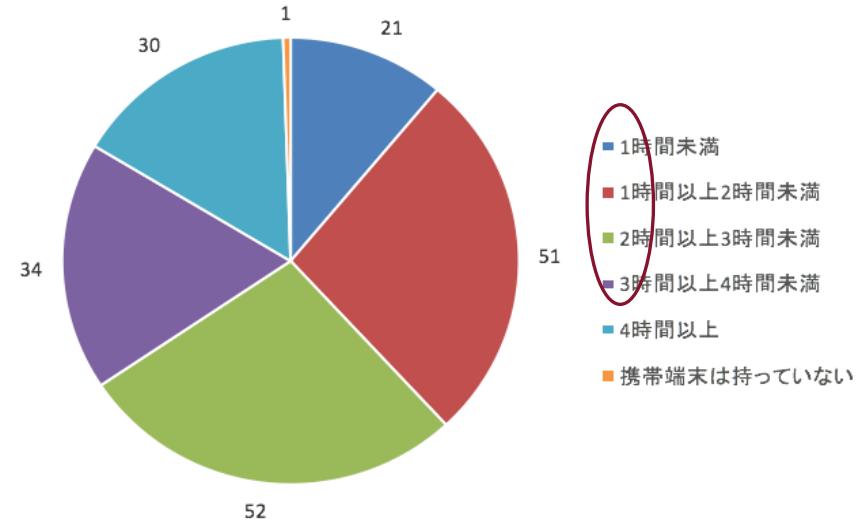
- ・約6割が文系、約4割が理系
- ・約4割は1時間以上

# 日あたりの平均的なPC等の利用時間

## 日あたりの平均的な携帯端末の利用時間



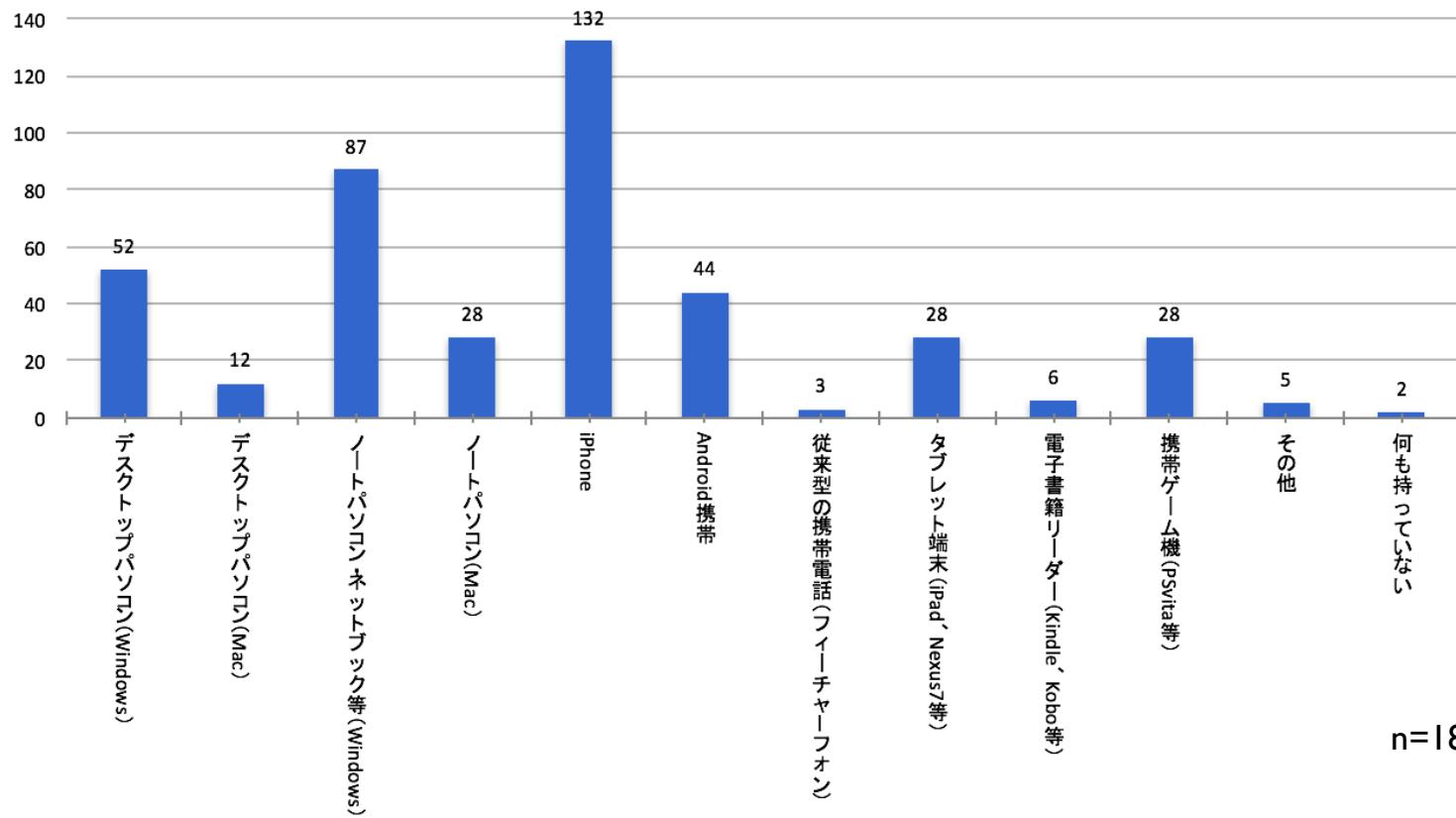
n=189



n=189

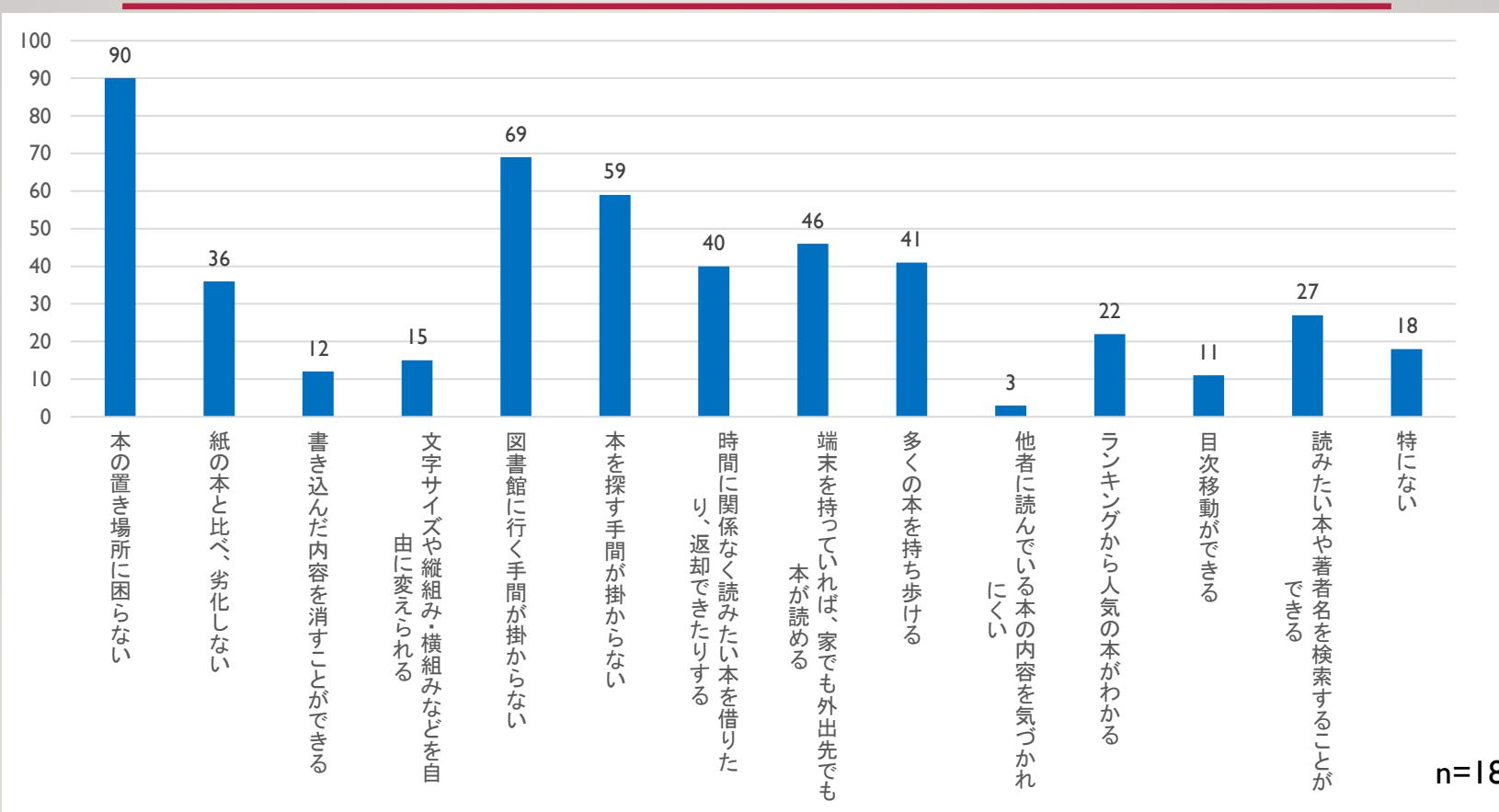
・1日のPC利用は8割以上が2時間未満であるのに対し、  
携帯端末は6割以上が1日2時間以上利用

# 現在持っている電子機器



- ・iPhoneが圧倒的
- ・パソコンにおいてはMacよりもWindowsの方が所持者が多い

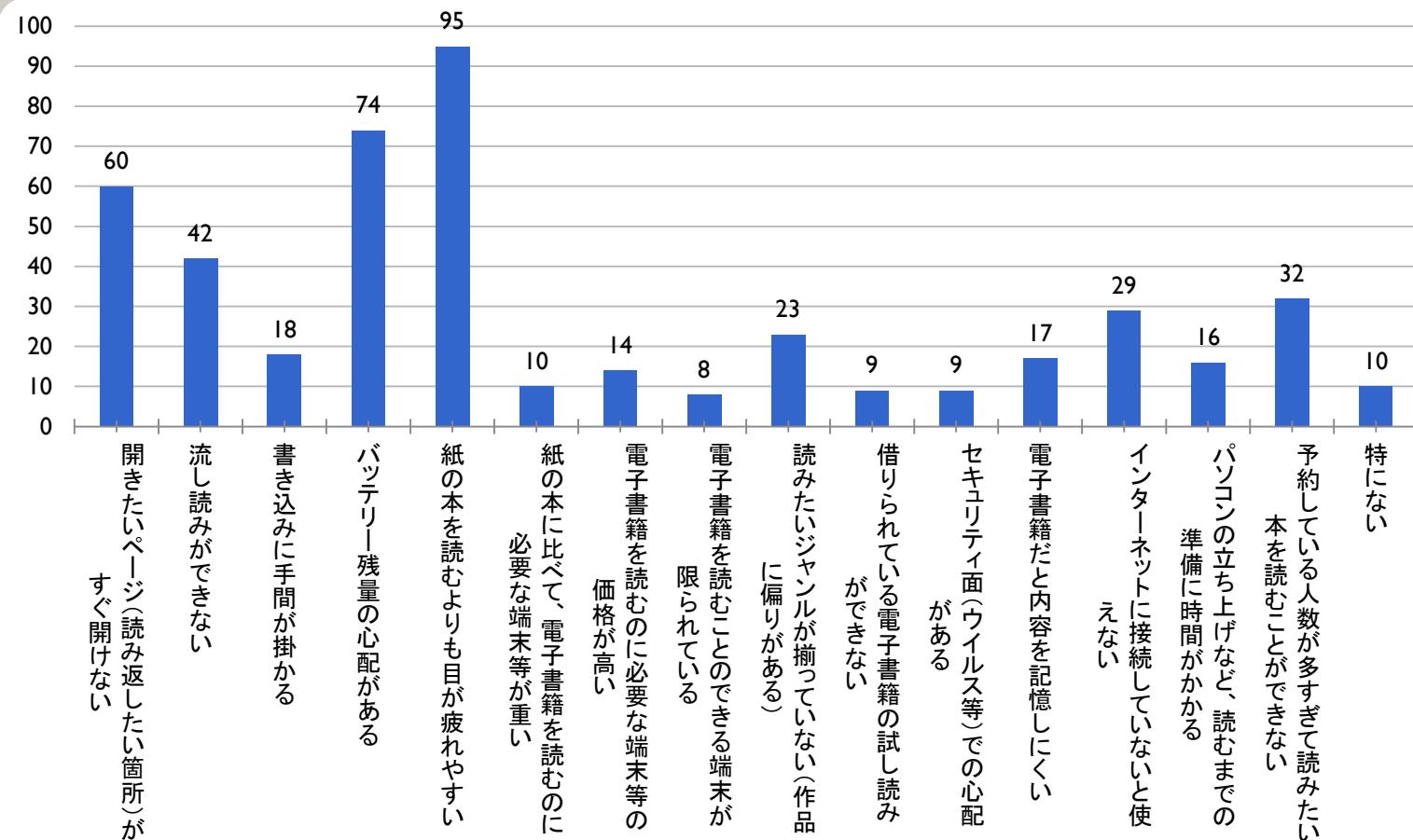
# どのような点に魅力を感じたか



n=189

- ・置き場所に困らない(90名)、図書館に行く手間がかからない(69名)、本を探す手間がかからない(59名)が上位

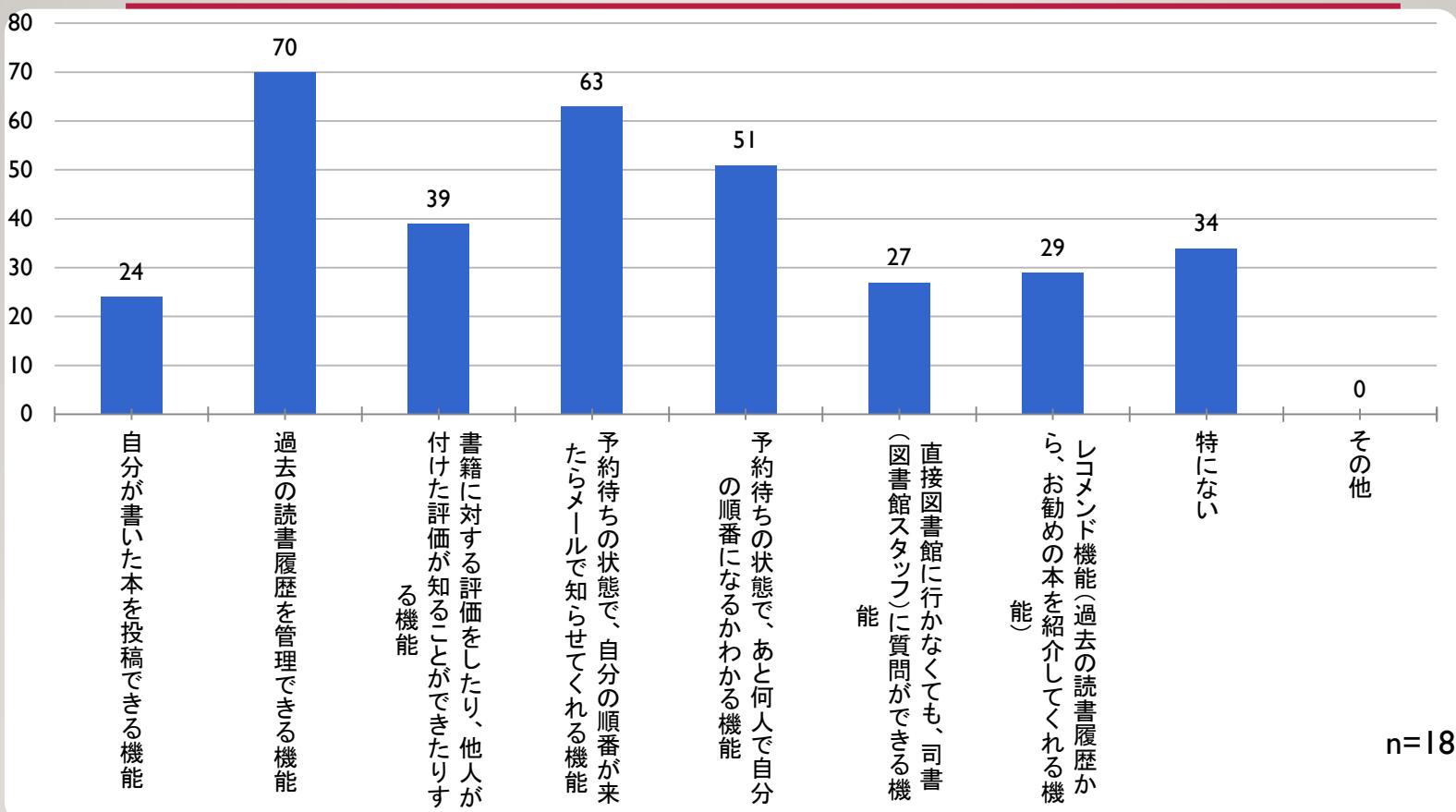
# どのような点に不便さを感じたか



n=189

- ・目が疲れる(95名)、バッテリーの心配(74名)は、電子機器における不便な点
- ・電子機器として改善の余地が沢山

# 追加して欲しい機能



- ・過去の読書履歴を管理できる機能(70名)を追加し、レコメンド機能に活かせば充実したものに？
- ・予約待ちに関する機能を追加することは有効

# 2013、2014年度の状況 1週間課題の場合

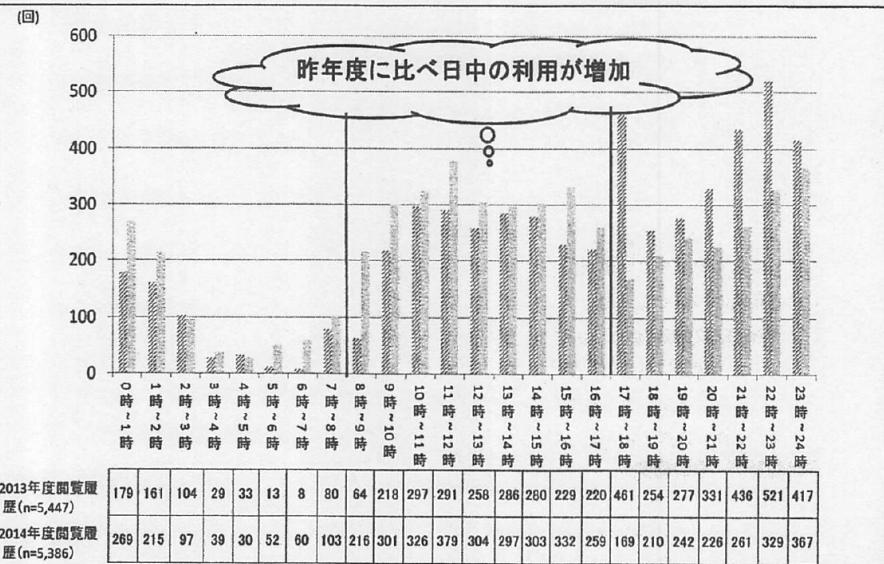


図 10 昨年度との総閲覧履歴比較

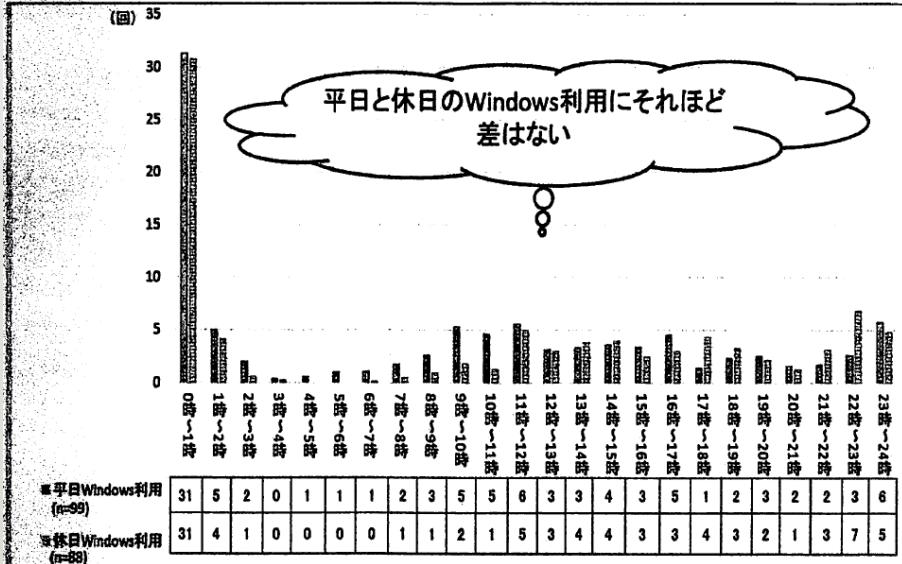
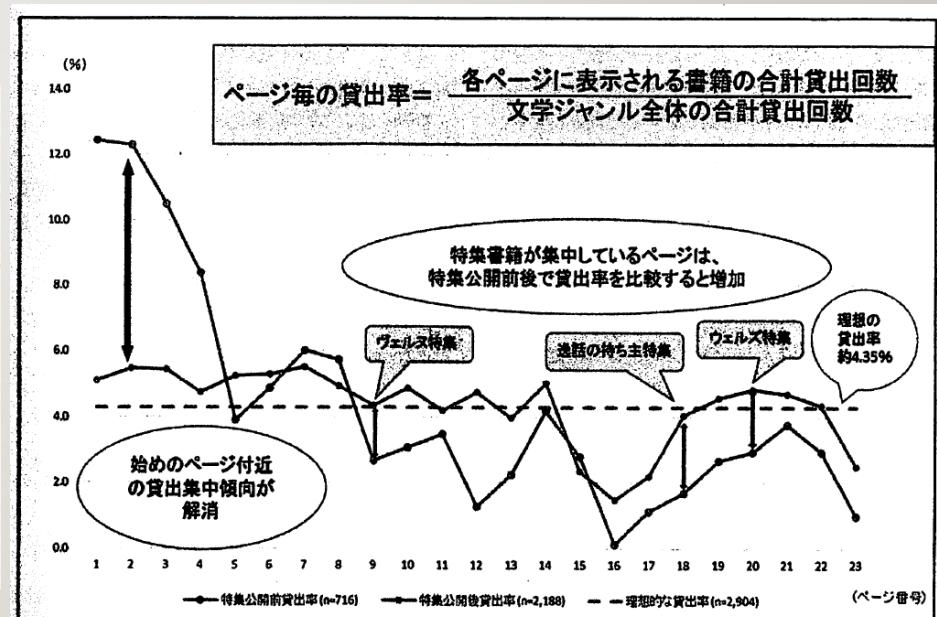
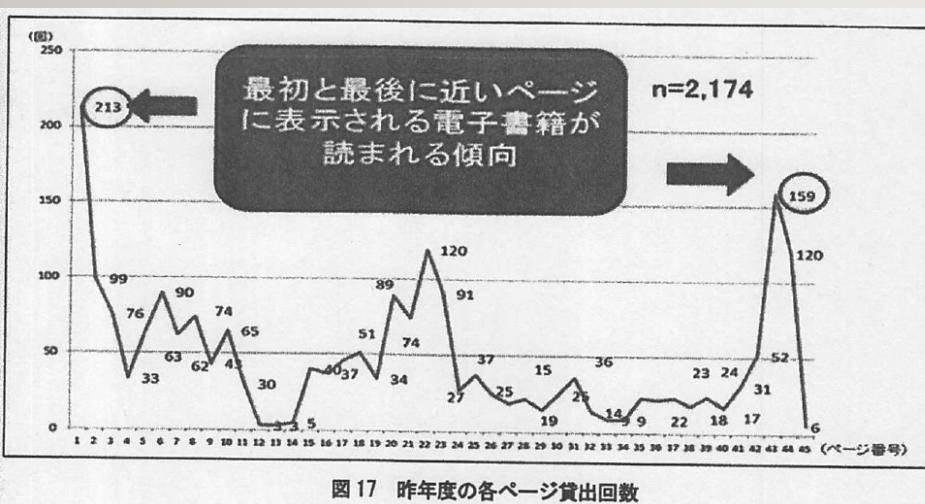
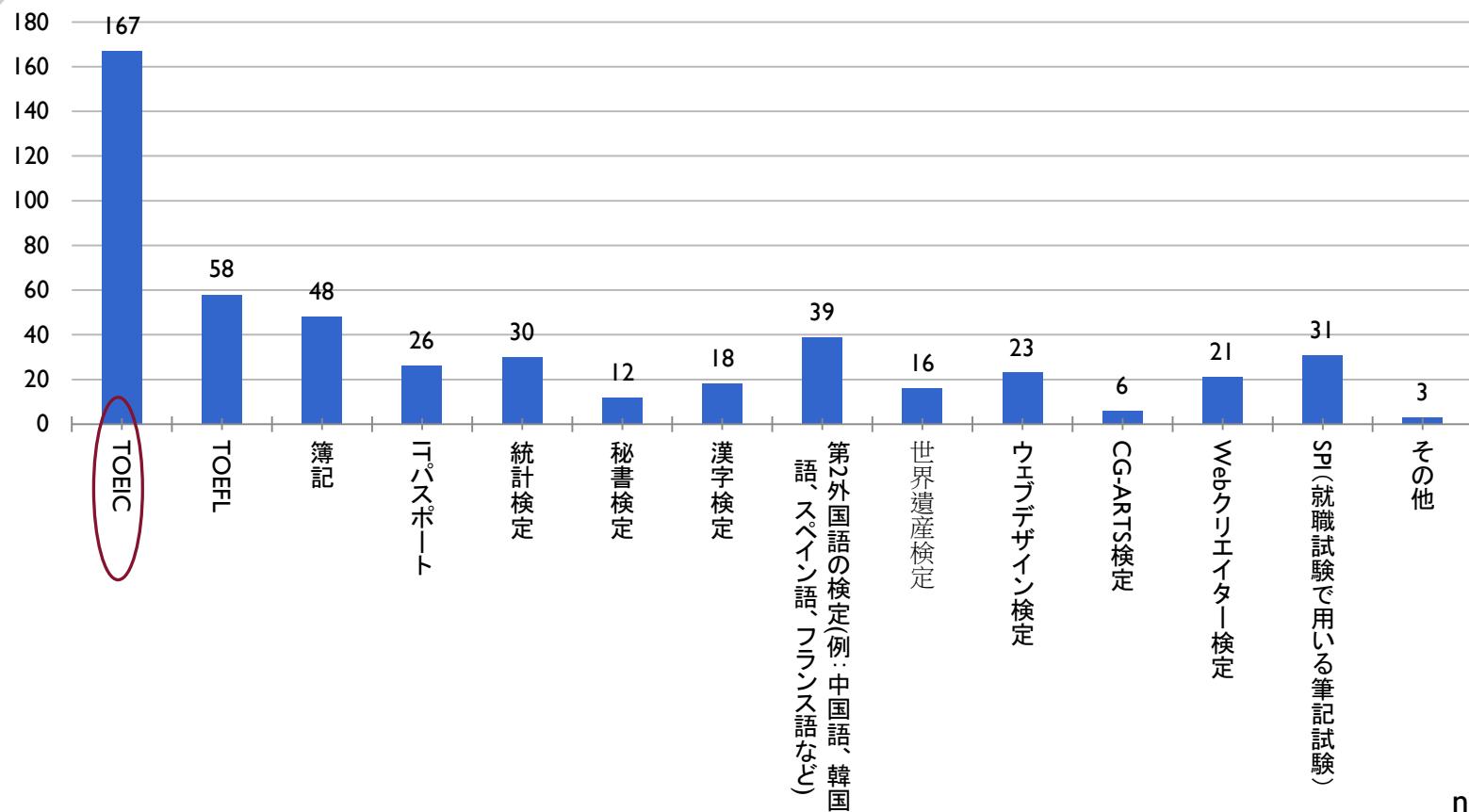


図 11 平日・休日 Windows 利用

# 2013、2014年度の状況 おすすめ図書の効果



# キャリアのために欲しい書籍のジャンル



・英語に対する意識が強いことがわかる(主にTOEIC 167名)  
一方、就職活動に対する意識はまだあまりないことがわかる(SPI 31名)

# プロジェクト演習入門 I ／ II

## プレゼン教育に必要な資料

---

- 授業内容
  - PBL(Project Based Learning)型の演習科目
  - 実証実験は、前期科目の「プロジェクト演習入門 I」で実施
- 履修者
  - 学部の2年生が中心(例年、履修者は200名以上)
- 授業の進め方
  - 企業や行政等が抱える具体的な問題、解決すべき課題を提示  
例:相模原市の2020オリパラへ向けた支援政策、オムロンの環境センサー・ビジネス、崎陽軒のシウマイに代わるコア商品など
  - 学生は5~6人からなるグループを編成、問題解決に取り組む
  - 学生は、講義の14回目に行われる、**学外**からの審査員を招いた報告会にて、成果をプレゼン
  - そのため、学生には発表資料とプレゼンの両面において、  
**初見で見ても、分かりやすい**内容を要求

# プレゼンテーション学習に必要な書籍

**パワーポイント作成**

他に聞けない「パワーポイント」超★活用法 デジタル版 (中経の文庫)  
国本 退子 著  
KADOKAWA  
コンテンツタイプ: 電子書籍 (リフロー)

速効! 図解PowerPoint 2013  
野々山 美紀 著  
マイナビ  
コンテンツタイプ: 電子書籍 (フィックス)

サクサクわかるPowerPoint 2013  
サクサクわかる編集部 著  
マイナビ  
コンテンツタイプ: 電子書籍 (フィックス)

プrezen・企画書の悩み劇的解決!パワーポイント2007 電子版 (GAKKEN COMPUTER MOOK)  
学研パブリッシング  
コンテンツタイプ: 電子書籍 (フィックス)

研究発表のためのスライドデザイン (ブルーバックス)  
宮野 公樹 著  
講談社  
コンテンツタイプ: 電子書籍 (フィックス)

[パワーポイント作成をもっと見る](#)

**プレゼンテーション(話し方)**

上手な話しが面白いほど身につく本 デジタル版 (ポイント図解)  
櫻井 弘 著  
KADOKAWA/中経出版  
コンテンツタイプ: 電子書籍 (リフロー)

好感度がアップするマナー美人の聞き方・話し方 (角川文庫)  
マナー美人俱楽部 編  
KADOKAWA/角川学芸出版  
コンテンツタイプ: 電子書籍 (リフロー)

話し方の技術が面白いほど身につく本 改訂版 デジタル版  
櫻井 弘 著  
KADOKAWA  
コンテンツタイプ: 電子書籍 (リフロー)

コヨク式1分間で伝わる話し方 (中経の文庫)  
下地 寛也 著  
KADOKAWA  
コンテンツタイプ: 電子書籍 (リフロー)

図解テレビに学ぶ中学生にもわかるように伝える技術  
天野 梢子 著  
ディスクガーバー・トゥエンティワン  
コンテンツタイプ: 電子書籍 (フィックス)

[プレゼンテーション\(話し方\)をもっと見る](#)

## 書籍の他に掲載した資料

# ① プレゼン資料集4冊

- ◆ 発表資料作成の参考にするため、前年度の、入門Ⅰ分1冊、入門Ⅱ分前編・中編・後編の3冊を電子書籍として実装
  - ◆ プレゼン資料集は、前年度のファイナルプレゼンテーション時に、実際に審査員へ配布したもの

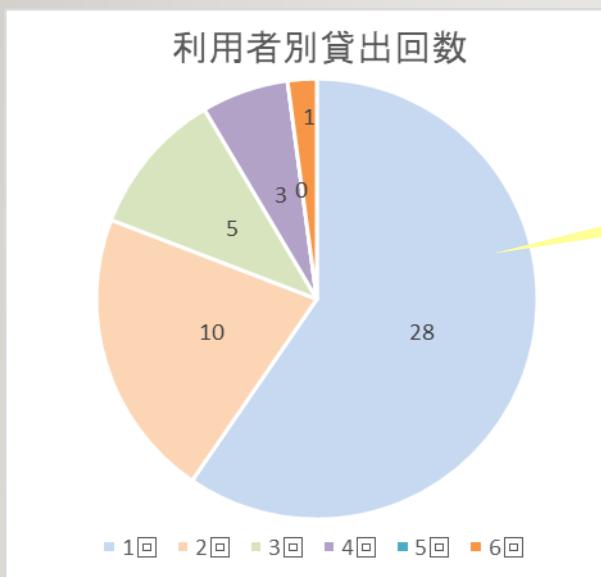
## ② ファイナルプレゼンテーション時の映像資料6本

- ◆ プレゼンをする際の参考にするため、前年度の、入門Ⅰ分3本、  
入門Ⅱ分3本を実装(1本当たりの時間は、60分～90分程度)
  - ◆ 映像資料は、前年度ファイナルプレゼンテーション時、審査員から  
高評価を得たグループの発表が含まれている教室の録画映像



# 利用統計データの分析結果

- 資料を借りた学生 ⇒47人／219人

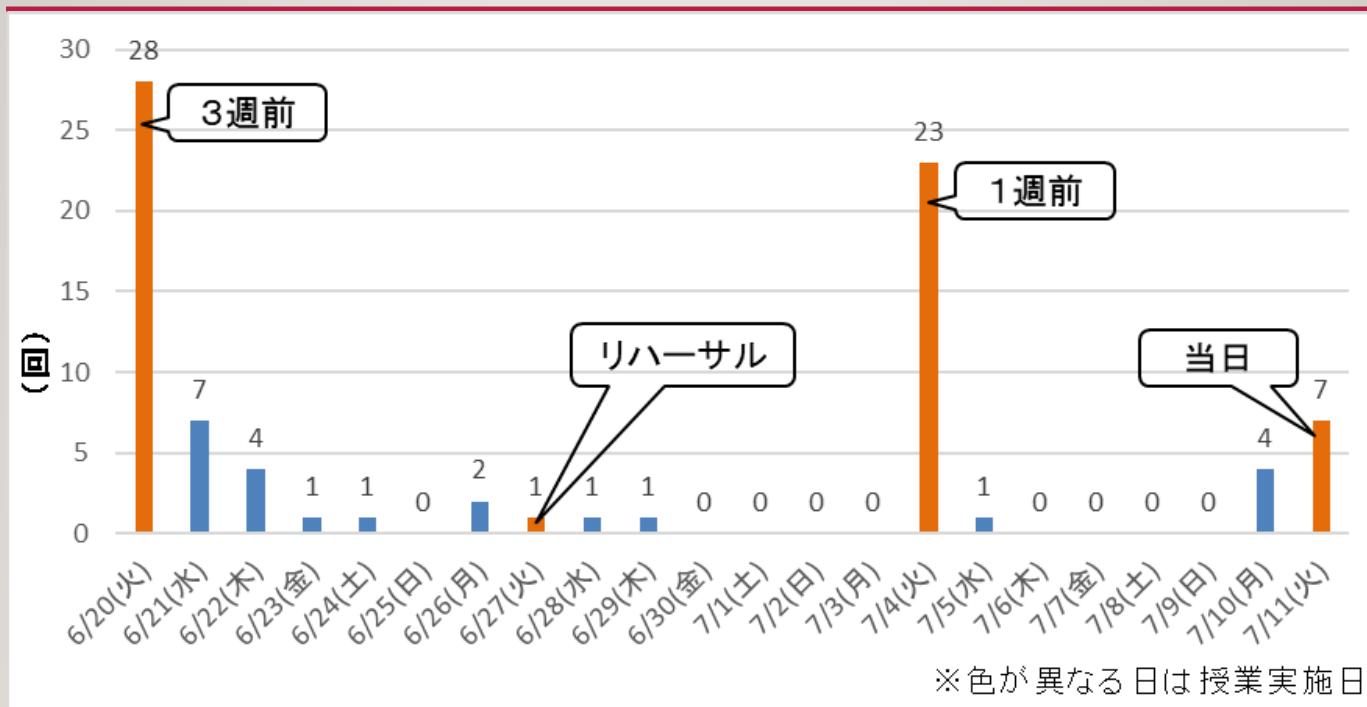


- 大半が1回の利用
- 複数回借りた学生は4割程度

- 資料集の貸出回数 ⇒34回
- 映像資料の貸出回数 ⇒47回

- 総貸出回数は81回
- 資料集と映像資料の両方を借りた学生は13人

# ファイナルプレゼンへ向けての利用

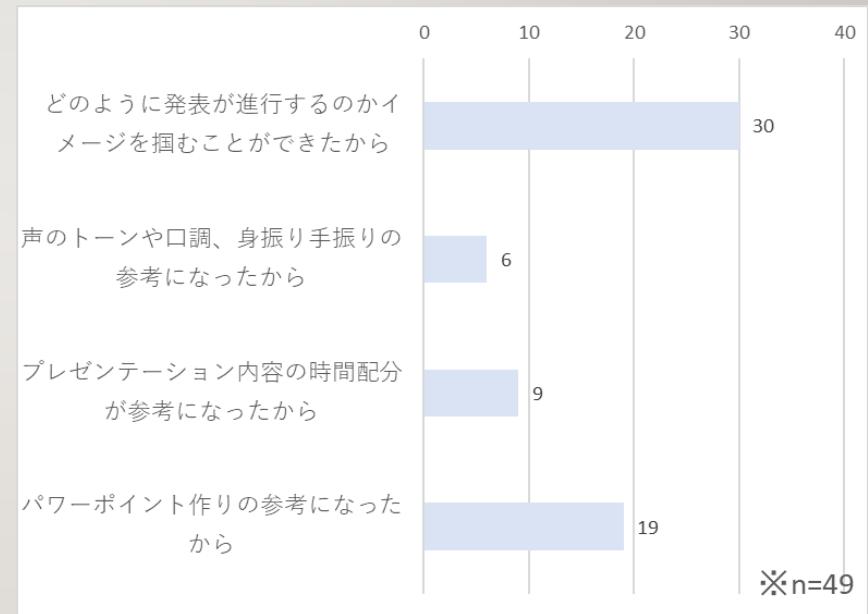
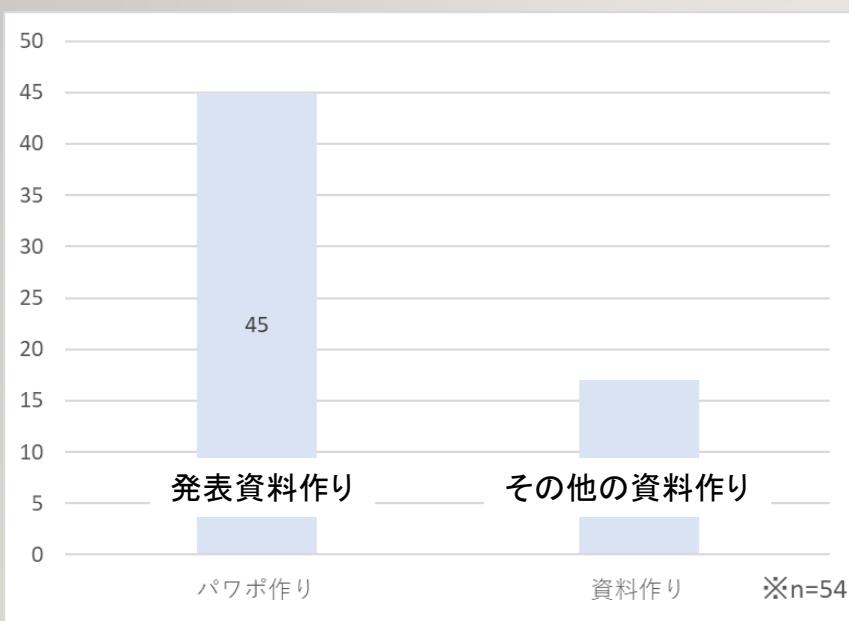


最も多いのが「6/20(火)」で28回(34.6%)、次いで、「7/4(火)」の23回(28.4%)、「6/21(水)」と「7/11(火)」の7回(8.6%)の順

⇒ただし「6/20(火)」と「7/4(火)」は、講義内で利用を促進

- この状況を改善し、自習する時等の**講義の時間以外**でも、積極的に活用されるツールにすることが必要

# 資料集と映像資料が参考になった理由



- 資料集は、「発表資料作り」の参考になったと回答した学生が多い
- 映像資料は、発表当日の進行イメージを掴めたからとの回答が多い
- 電子図書館は、**発表資料作成**や**プレゼンのイメージ作り**に活用
  - 利用者数は少ないが、資料を実装した目的自体は果たされた

# 問題集への活用(TOEICやSPI)

 データ分析

 <p>高校数学でわかる統計学 (ブルーパックス) 竹内 淳 著 講談社 コンテンツタイプ: 電子書籍 (フィックス)</p>	<button>借りる</button> <button>試し読み</button>
 <p>すぐわかるExcelピボットテーブル 早坂 清志 著 KADOKAWA コンテンツタイプ: 電子書籍 (リフロー)</p>	<button>借りる</button> <button>試し読み</button>
 <p>すぐわかるExcelデータ集計&amp;分析 早坂 清志 著 KADOKAWA/アスキー・メディアワークス コンテンツタイプ: 電子書籍 (リフロー)</p>	<button>借りる</button> <button>試し読み</button>
 <p>すぐやってみたくなる!データ分析がぐるっとわかる本 豊田 裕貴 著 すばる舎 コンテンツタイプ: 電子書籍 (フィックス)</p>	<button>借りる</button> <button>試し読み</button>
 <p>7日間集中講義!Excel統計学入門 米谷 学 著 オーム社 コンテンツタイプ: 電子書籍 (フィックス)</p>	<button>借りる</button> <button>試し読み</button>

[データ分析をもっと見る](#)

 TOEIC対策

 <p>ゼロからはじめて600点取れるTOEICテスト勉強法 デジタル版 安河内 苦也 著 KADOKAWA コンテンツタイプ: 電子書籍 (リフロー)</p>	<button>借りる</button> <button>試し読み</button>
 <p>このTOEICテスト本がすごい! デジタル版 浜崎 清之輔 著 KADOKAWA/中経出版 コンテンツタイプ: 電子書籍 (リフロー)</p>	<button>借りる</button> <button>試し読み</button>
 <p>TOEICテスト900点。それでも英語が話せない人、話せる人 デジタル版 ヒロ前田 著 KADOKAWA コンテンツタイプ: 電子書籍 (リフロー)</p>	<button>借りる</button> <button>試し読み</button>
 <p>TOEICテストにできる順英単語 デジタル版 河上 源一 編著 KADOKAWA コンテンツタイプ: 電子書籍 (リフロー)</p>	<button>借りる</button> <button>試し読み</button>
 <p>できる人のTOEICテスト勉強法 改訂版 デジタル版 中村 遼子 著 KADOKAWA コンテンツタイプ: 電子書籍 (リフロー)</p>	<button>借りる</button> <button>試し読み</button>

[TOEIC対策をもっと見る](#)

図書館では、書き込みを減らすため、問題集などは置かない

# まとめ

---

- 青山学院大学社会情報学部における  
電子図書館の活用事例を紹介
  - 多読課題(速読技法の向上)
  - プレゼンテーション教育(模範演技、過去資料)
  - TOEICやSPI(問題集)
- 電子図書館への期待
  - 多数の図書を持たなくて良いメリット、目が疲れるデメリット(電子機器に依存)
  - 電子機器であることを活用した機能を大いに期待
    - 自分の読書記録、引用
    - 他者の書評書き込みなどソーシャルメディア機能

# 参考文献

---

- 1) 青山学院大学社会情報学部(2018)「青山学院大学社会情報学部電子図書館」,  
<https://www.d-library.jp/agu/g0101/top/> Accesseed.2018.10.19.
- 2) 上野亮, 飯島泰裕(2016)「多読課題に対する大学生の電子図書館利用状況に関する考察」,『日本計画行政学会・社会情報学会共催 第10回若手研究交流会 予稿集』, pp.91 - 94.
- 3) 上野亮, 飯島泰裕(2018)「電子図書館を活用したプレゼン教育に関する研究」情報処理学会第80回全国大会
- 3) 株式会社図書館流通センター(2017)「電子図書館サービス 人と資料をつなぐために」, <http://www.trc.co.jp/solution/trcdl.html>, Accessed 2017.12.25.
- 4) 臼井大晴, 鈴木彩, 村上寛「大学教育における電子図書館の運用に関する一考察 ~多読課題を通して~」平成26年度『情報と社会』第4巻, 青山学院大学社会情報学部飯島研究室
- 5) 岩井香織, 大竹宏和, 小川皓亮「電子図書館に関する一考察 ~多読課題を通して~」平成25年度『情報と社会』第3巻, 青山学院大学社会情報学部飯島研究室